

平成15年 7月17日

ここのえ町

第62号

発行／九重町議会

〒879-4803
大分県玖珠郡九重町大字後野上8-1

☎ 0973-76-3814

編集／議会広報編集委員会

印刷／尾花印刷有限会社

議会だより

県道田野野上線平家橋の開通式



6月定例会

- 第2回定例会 P.2
- 契約関係 P.2
- 補正予算関係 P.3
- 陳情・請願 P.4
- 議員発議 P.5
- 一般質問（3名登壇） P.6～8
- わたしのひとこと
飯田地区 城戸 好信さん P.9
野上地区 辻 富士子さん
- こんな町にしてほしい 東飯田小学校6年 清水 裕太さん P.10

平成15年

第2回定例会

6月19日～6月30日(12日間)

議案18件・陳情2件

請願1件を慎重に審議しました。

《契約関係》

工事名

●恵良住宅新築主体工事
(建替)

契約方法

指名競争入札

契約金額

2億5千9百35万円

契約業者

大分市 羽屋

新成建設KK

代表取締役 藤田三吉

●恵良住宅

新築電気設備工事

契約方法

指名競争入札

契約金額

5千1百13万5千円

契約業者

大分市 三佐

松栄電設工業KK

代表取締役 松木年広

●恵良住宅

新築給排水衛生設備工事

契約方法

指名競争入札

契約金額

6千5百10万円

契約業者

大分市 下郡

協栄工業KK

代表取締役 佐藤総一

●宝泉寺栗原線

BP整備工事(その1)

契約方法

指名競争入札

契約金額

9千9百75万円

契約業者

大分市 羽屋

新成建設KK

代表取締役 藤田三吉

●宝泉寺栗原線

BP整備工事(その2)

契約方法

指名競争入札

契約金額

契約業者

6千3百万円

九重町 町田

小倉建設KK

代表取締役 永吉陽一

●宝泉寺栗原線

BP整備工事(その3)

契約方法

指名競争入札

契約金額

6千5百10万円

契約業者

九重町 町田

KK大東建設

代表取締役 小田浩治



宝泉寺栗原線バイパス整備工事起点

議会の動き

4月

11日 九重町消防団新役員・新入団員任命式

16日 町内巡視(教育民生常任委員会)

17日 町内巡視(建設産業常任委員会)

17日 町内巡視(総務財政常任委員会)

22日 区長会

25日 教育民生常任委員会視察(大分市)

22日 ドリームコンテスト「キャンペーンレディ」審査会

2日 日出生・台演習場周辺整備期成会総会(湯布院町)

9日 新議員・元議員研修会(大分市)

143日 玖珠郡議長会総会

市町村合併対策特別委員会

15日 議会運営委員会

玖珠郡育英会総会

16日 九重町観光協会総会

17日 関西くすこの会「ふるさと訪問」レセプション

19日 教育民生常任委員会視察(島根県)

20日 総務財政常任委員会視察(北海道)

27日 日田玖珠広域議会(臨時会)・議員研修会(日田市)

28日 全国議長研修会(東京都)

29日 佐賀県大和町議会視察来町

条例関係

手数料徴収条例の一部改正については

広域住民票を交付する手数料及び身分証明証にも使用できる、住民基本台帳カードの交付手数料を定めるものであり、**適当である**との結論に達しました。

町税特別措置条例の一部改正については

第2条第1項中における上位法である。租税特別措置法第12条第1項の表の第4号を3号に変更し、条文を整備するものであり、**適当である**との結論に達しました。

国民健康保険税条例の一部改正については

国民健康保険税医療分、介護分の給付費納付金額の決定に伴い、医療分、介護分の所得割額、均等割額、平等割額と軽減額を一部改正するものであり**適当である**との結論に達しました。

補正予算

一般会計

◆補正額

1億1千8万6千円

◆累計額

7億7千5百39万8千円

補正の主なもの

●町道北方線道路改良事業費
約5百40万円

●鳴子川溪谷周辺整備事業費
約2千万円

補正予算審議

Q 鳴子川溪谷及び周辺整備事業の補償補填及び賠償金の補正で1千7百18万8千円が計上されているが当初予算は4百18万円で約4倍になっている。当初段階で見込めなかったのか、また、立木は用地購入費に含まれていると聞いていたが詳しい説明を聞きたい。

A 当初予算では、用地購入費の中に含んでいたが、県のバイパス関連で伐採補償として県が予算化しているために県にあわせて補償、補填に組み替えをしたものです。

Q 恵良住宅新築に関して本体工事の落札業者は一家だが、ベンチャー等を組ませて分離発注するなど、地元業者にも落札できるように取り組みはできないか、このような厳しい時期に配慮すべきだ。

A 工事請負資格に則つての入札発注であり、資格制度により、指名競争入札を

しています。

Q 鳴子川溪谷開発の土地等購入の補償単価がわかれば算定基礎をききたい。

A 補償については、山林で、 m^3 3百円、宅地 m^2 5千円、立木50年生1本3千3百30円です。



鳴子川溪谷開発周辺整備予定地付近

6月	
1日	くじゅう山開き
2日～5日	建設産業常任委員会視察（北海道）
3日	議長・議会運営正副委員長研修会（大分市）
8日	特別養護老人ホーム「敬天荘」三十周年記念式典（天瀬町）
10日	九重町飯田農業協同組合総会
11日	九重町身体障害者福祉協会総会
16日	鳴子川溪谷周辺整備事業関係陳情（熊本市）
17日	総合防災訓練
19日	本会議（開会）
23日	全員協議会
24日	本会議（一般質問）
25日	教育民生常任委員会
27日	総務財政常任委員会
30日	教育民生常任委員会視察（中津江村）
31日	玖珠郡防犯協会連合会総会（玖珠町）
7月1日	建設産業常任委員会
7月2日	玖珠郡任意合併協議会（玖珠町）
7月3日	玖珠郡老人養護組合議会
7月4日	玖珠郡老人養護組合議会
7月5日	玖珠郡老人養護組合議会
7月6日	玖珠郡老人養護組合議会
7月7日	玖珠郡老人養護組合議会
7月8日	玖珠郡老人養護組合議会
7月9日	玖珠郡老人養護組合議会
7月10日	玖珠郡老人養護組合議会
7月11日	玖珠郡老人養護組合議会
7月12日	玖珠郡老人養護組合議会
7月13日	玖珠郡老人養護組合議会
7月14日	玖珠郡老人養護組合議会
7月15日	玖珠郡老人養護組合議会
7月16日	玖珠郡老人養護組合議会
7月17日	玖珠郡老人養護組合議会
7月18日	玖珠郡老人養護組合議会
7月19日	玖珠郡老人養護組合議会
7月20日	玖珠郡老人養護組合議会
7月21日	玖珠郡老人養護組合議会
7月22日	玖珠郡老人養護組合議会
7月23日	玖珠郡老人養護組合議会
7月24日	玖珠郡老人養護組合議会
7月25日	玖珠郡老人養護組合議会
7月26日	玖珠郡老人養護組合議会
7月27日	玖珠郡老人養護組合議会
7月28日	玖珠郡老人養護組合議会
7月29日	玖珠郡老人養護組合議会
7月30日	玖珠郡老人養護組合議会
7月31日	玖珠郡老人養護組合議会

みなさん方の陳情や

請願はこうなりました。

陳情

九重町区長会会長、志賀義則氏外8名からの「屋内ゲートボール場の新設について」は



ゲートボールで健康づくりを

本町におけるゲートボールの現状は季節を問わず若男女が健康の保持・増進を兼ねて、更には交流の場としても盛んに大会等が行われている。財政状況と絡むため建築時期や規模などは限定できないが趣旨は理解できるので採択することで見解の一致をみました。

飯田区長会会長、志賀義則氏外2名からの「町営住宅の建設について」は



定住傾向が見られる飯田地区に住宅を

本町の過疎化が進む中であって飯田地区の人口は緩やかな減少に止まり比較的安定した状況にある。若者についても定住傾向が見受けられることや、ＩＴターの多くが飯田地区を希望していることなどから、定住促進に向けた取り組みが必要であり、よって採択することで見解の一致をみました。

請願

大分県教職員組合玖珠支部執行委員長、佐藤明彦氏からの「義務教育費国庫負担制度の見直し反対に関する請願」については



東飯田小学校

義務教育費国庫負担制度の見直しが行われると、地方自治体負担の増大につながり財政危機を招く恐れがあるため採択することで見解の一致をみました。

決議

交通死亡事故撲滅宣言
交通死亡事故撲滅宣言に関する決議

郡内の交通事故は前年死亡総数を上回っている。この状態で推移すると過去最悪の事態に陥ることが懸念され、町民の安全を守る立場にある我々議会として憂慮に耐えない。町民の安全を守る為、九重町議会の名において交通死亡事故撲滅宣言を行い、その決議を表明する。

平成15年6月30日
大分県九重町議会

財産取得

● 鳴子川溪谷周辺整備事業

用地に伴う財産取得

山林・宅地

50480・67㎡

取得価格

1千9百66万3956円

立木補償

6百95万7150円



野上中学校のコンピューター教室

● 町道北方大吊橋線道路用地として取得
山林・田
23613・27㎡
取得価格
1千84万8633円

● 中学校教育用コンピューター機器一式
取得価格
1千7百15万7000円
取得の相手方
大分市中央町
大分日本タイプKK

発議

三位一体の改革の早期実現に関する意見書

現下の地方財政は極めて危機的な状況にある。このような状況に至った背景にはバブル経済崩壊後の景気低迷により大幅な税収不足が生じたほか、国の景気対策による公共事業の追加や地方税を含めた政策減税の実施等、国の財政運営に伴い地方財政においても財源不足が拡大したという問題がある。

かかる危機的な財政状況を打開するためには、もとより地方も国とともに徹底した行政改革を推進すべきであるが、我々は財政構造改革の真髄は地方税財政制度を地方分権時代に相応しいものに切り換えていくことにあると考える。

しかしながら地方における歳出規模と地方税収との距離を縮小することを基本として国税と地方税の税配分が当面一対一となることを目指すべきであるとした、



去る5月23日の地方制度調査会の意見及び6月11日の地方財政審議会の意見は今後尊重されるべきである。また、国庫補助負担金の廃止縮減については平成14年12月24日の国と地方に係る経済財政運営と構造改革に関する基本方針に沿って今後も引き続き積極的な取り組みが進められるべきである。

よって政府国会においては三位一体の改革はあくまでも地方分権の理念の実現を基本に据えて推進していくべきものであるとの観点に立ち、移譲すべき税源は所得税及び消費税を中心とし、今回固められた三位一体の改革の方針が予算編成の過程で後退することのないよう、また、今後も引き続き三位一体の改革が推進されるよう強く要望する。

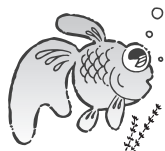
共同農業普及事業に関する意見書

国と県が共同で行っている共同農業普及事業については一般行政や試験研究と並ぶ農政の基本的な推進手法として実施されている。担い手の育成や食農教育など地域農業の構造施策の推進に大きく寄与している。その役割を一層発揮していくことが重要である。

政府並びに大分県に対して特段の措置を講じるよう要望する。

義務教育費国庫負担制度の見直し反対に関する意見書

国が負担していた教育費は地方分権という大義名分のもと地方へ転嫁され、このことが教育の機会均等、教育水準の維持、向上を阻害する要因となり憲法、教育基本法の趣旨を尊重した措置を要望するため。



市町村合併を考へる

後も新法により自主的な合併を推進するとしている。

地方制度調査会がまとめた、今後の地方自治制度を見ると、小規模町村の権限を大幅に縮小し、自治体の器を大きくする相変わらずの「合併ありき」で、生き残りを求める小規模町村に厳しい内容であることには変わりない。

地方分権時代に必要な多様性を欠いた報告としか思えない。

報告の特徴は住民の身近な行政サービスを担う「基礎的自治体の役割を鮮明にしたことと、規模が拡大する基礎的自治体内に住民との距離を縮める「地域自治組織の創設」を提言したところだ。

基礎的自治体のイメージについては十分な権限と財政基盤を有し、高度化する行政事務に対処できる専門職員を置くことや福祉や教育、まちづくりなどを処理できる体制を構築するため規模、能力を充実強化する必要があるという。

そのために2005年3月の合併特例法の期限切れ

合併が有力な選択肢になることは間違いない。ただ判断は地域に住む住民に任せ合併に追い込むのはやめてほしい。歴史や文化、経済など規模も多様な自治体が共生できる仕組みをつくることに知恵を注いでほしいと思う。

小規模自治体は現に福祉サービス等で住民との連携で確保するなど対応している。地域の実情に即した行政サービスの手法があつて当然と思う。

九重町としても近々の内にいづれかの判断をしなければならぬ。長期のプランで後世に悔いを残さないようにしなければならない。

私の一般質問

6月20日に3名が質問しました。

質問と答弁の内容を要約してお知らせします。

井上 里子



放課後児童クラブの設置を

問 放課後児童クラブは、昼間家庭に保護者等のいない小学校低学年児童の健全育成及び子育て支援のため、放課後夕方まで安心して過ごせる場を提供するもので、県の「子ども育成プラン」では、16年度までに170か所を目標に設置を促進している。現在、134か所。

町内幼稚園の5才児で、夕方まで預かり保育を受けている子どもが21名いる。この子ども達や、他の昼間保護者不在の子ども達も、小学校3年生頃までは、放課後安心して過ごせる場が必要である。本町も児童クラブを設置すべきである。

本年度施政方針にも「放課後児童クラブ、その他の子育て支援事業を展開する」と示されている。本年度どのように取り組むのか。

〈調査したい〉

答 要望がどのくらいあるのかを今年は調査をしたいというふうに思います。



元気に走り出す子どもたち

九重町子ども育成計画

問 「九重町子ども育成計画」は、本年度が計画期間の最終年である。計画推進に関して次の点をお聞きたい。

「よい子の育つ町づくり

委員会」は機能しているか。計画全体の実施状況は。「元気な九重つ子を育てる連絡会議」の結成は。親子参加の環境学習会は。

〈実施状況は約5割〉

答 今まで1回委員会を開いています。実施状況は半分前後。「元気な九重つ子を育てる連絡会議」については今のところ考えていませ

ん。親子参加の環境学習会は、ごみの分別が正しくできる親子学習会を計画したいと思います。

栗野河原運動公園ウォーキングロードの整備は

問 栗野運動公園は、安全なウォーキング場所として周辺地域の住民に利用されている。ウォーキングロードの整備について、これまでも町に要望が出されてい

て「玖珠のような形が出来るかどうか勉強したい。」という答弁も過去している。周回できるウォーキングロードの早期整備を要望する。

〈草刈り等を考えている〉

答 コースの整備については平成5年の災害で全ての施設が破壊された。水が上

がる。今の道路を利用して、安全を確保しながらやってほしい。草を刈る程度の整備はやりたいと思います。

水田農業の振興は

坂本憲治



問 昨年12月政府は新たな米政策大綱を打ち出した訳ですが、町内の米作農家の現状は非常に厳しいものがあります。米大綱によると、今後は米による産地間競争が激化する事が予想されます。中山間、少面積での耕作地の多い九重町ではありますが、食味は新潟県の魚沼

産に次ぐAランクの産地です。価格も全国でも上位にランクされていますが、米作農家にとっては不安です。今後は売れる九重産ブラ

ンド米、消費者に喜んで食べてもらえる生産体系が必要かと思われます。今後の取り組みについて伺いたい。



圃場整備される川東地区

〈ビジョンづくりが急務〉

答 この大綱は、今日までのまでの転作制度が大きく変わり、地域で需要にあった米作りを行うため、今後は売れるだけの米の作付面積が配分される様になります。平成16年度から、大綱に基づいた産地づくり対策

をスタートします。今後は地域の実情に応じて地域みずから作成する、地域水田農業ビジョンに基づいて助成金が交付される事になっており、今後このビジョンづくりが急務であります。

集落営農の取り組みは

問 農業従事者の高齢化と共に、農業の担い手不足と将来を考えた時に、現状の農村集落を維持する事は困難な状況にあると考えられます。地域ごとに状況も違います。自分達の地域に合

った活動推進のために自主活動出来るリーダー養成と、プロジェクトグループの育成に取り組み、農村集落の持続的発展を願う所ですが今後の取り組みについて伺いたい。

〈農業の意識改革〉

答 機械利用組合は進んでいる所もありますが、高齢化の問題もあります。組織を早急に作る必要があると考えます。機械利用型、作業受託型、作業共同経営型

等ありますが集落営農推進には、農民の皆様の意識改革も大事だと考えます。今後リーダー、後継者育成を行い農業の集落営農の方向に向かって努力します。



集落営農等で持続的発展が期待される

J Aの早期正常化へ向け 行政が仲裁を！



江藤 一幸

問 J A玖珠九重が生れて2年が経過したが、最悪の状況になっている。

「J Aを考える会」が1277名の署名（九重の組合個数の約7割）を持って、合併前のJ A組織に戻されたいと、県と農協中央会に申し入れ行動が起きたり、「旧J A九重」の有志理事が、「旧J A玖珠」の理事に対して、貸付限度額オーバーで訴訟し、「現J A玖珠九重」が「旧J A九重」の理事に対して、貸し倒れ引当金不足で訴訟を起こす等、混乱の度を深めている。混乱を増している農業、その中で先頭に立ち、農家農村を指導・導く大事な使命を担っている組織『J A』が、合併2年で理想と大きく食い違う、負の連鎖の増幅が起きている現状、これをくい止め、正常化へ向ける為の行政の役割は大きい。今こそ積極的に、この混乱を沈静化させるために、仲裁をすべきと思うがいかがか。……！



混乱なく終了したJ A玖珠九重の通常総代会

〈仲介に努力〉

答 玖珠九重農協が大変な混乱状態にあることは言うまでもありません。これまで私どもと振興局、あるいは玖珠町等と何度となく会合をし、どうするかというような話を進めてきました。しかしながら大きな問題であると同時にそれぞれの責任問題がはつきりしていない。やっぱり農協は本来の姿に早く戻って農協としての使命を果たしてほしいという願いを込めているわけです。中央会が中に入れば、中央会と一緒にしながら、惜しまず仲介の労をとるという気持ちであります。





城戸好信さん

健康な町づくり

私は、病気に無縁で、健康に無関心でしたが現在「九重健康プラン」に参加する様になり「健康とは何か？」と改めて考えるようになりました。それら身体と精神、個人と集団、それぞれ両立させてこそ、本当の健康ではないかと。

たとえば犯罪の凶悪化、若年齢化などについて言えば、その原因に社会や家庭環境、食生活が大きくかわっていると考えられています。地域の無関心、家庭の愛情不足や会話の減少、夜型の生活、食品の欧米化やレトルト化による栄養の偏り、これらは精神的悪影響や病気の引き金ともなり

ます。まず、家族全員で生活を見直し心身共に健康な家庭づくりが第一歩ではないかと考えています。九重町には、よりよい環境、福祉、教育、過疎などさまざまな課題もありますが、健康で活気にあふれた町づくりは、家庭から地域へ、地域から町全体へ、健康の和を広げていく事ではないでしょうか？



シェイプアップで健康づくりをする人たち

わたしのひとこと



辻 富士子さん

この町で

あれは、暑い夏の日、まだ小学生の頃だった。隣の赤ん坊をおぶって、ホオズキを買っての帰り道、けたたましくサイレンが鳴り響き、東の空から爆音が聞こえてきた。ダダダダダと頭上で音がした。私達は思わず、小さな日傘に頭を隠し、しゃがみこんでしまった。広島、長崎に原爆が投下された。

8月15日、終戦。

あれから50数年、文明化し、平和になり目を見張るばかりに生活も豊かになってきた。しかし、私達が平和に暮らしている今でも、心ない戦争に巻き込まれ逃げまどう子ども達の姿を見ると戦争の悲惨さに腹立た



ウォーキングで元気人づくり

しさを感じてきます。戦争をしなければ平和にはならないのでしょうか。この地に生まれ、この町に住み、子どもを育て、これからも人とのふれ合いを大切に生きて行こうと思います。この美しい自然に恵まれた九重の町に、子どもがいて、若者がいて、老人が元気で暮らせることを願います。

こんな町にしたい

じまんできる町に

東飯田小学校6年

清水 裕太さん



ぼくはこの九重町をきれいな町にしたいです。今、この町はゴミの数が多くなっています。おかしなふくろやたばこのすいがらなどが多くおちています。へらすためにはおかしなふくろやたばこのすいがらなどをすてないようにと九重町の人みなによびかけたりゴミ拾いをみんなですようと心がけたらいいと思います。もう一つは平和な町にな

議員リレー

随想

32

団
結

坂本 憲治

スポーツの世界では、普通に使われている言葉の中に「チームワーク」がとれていると云います。チーム内の団結、連携がいい事です。私の知る限り、これ程までに「チームワーク」の取れた活動は、今まであったでしょうか。世界の平和や、自国の安全を願いつつも、自分たちの有利な方向に考え行動する。ある面ではしかたのない事かも知

ってほしいということです。今、世界は戦争になっていて、いつ日本も戦争になるか分かりません。九重町は人と人との争いがなく平和な町にしたいです。そのために一人を作らない。自分勝手をしない。相手の気持ちを考えて守ると戦争につながらないと思います。

こんな人が一人でも多くふえるといいと思います。

最後に交通マナーのよい町になってほしいと思います。歩行者は横断歩道をわたり、運転している人は速

れませんが、しかし今回は違いました。中国で発生した新型コロナウイルス、初期の中国の対応では過少報告等、中国らしさが目立ちました。やつぱり中国だ、たぶんこのままでは新型コロナウイルスの阻止は無理だろうと多くの人々はそう思った事でしょう。ところが、原因不明の病原菌とわかると、世界は一つ、世界保健機関、WHOを中心にすばらしい「チームワーク」を発揮、予想もしなかった速さで終息に向かい

度を守って運転すれば事故などはないと思います。

こんな九重町になれば、

ほかの町にもじまんできるいい町になると思います。



さわやかに咲きほこる千町無田水田公園

つつある。ほんとうに良かったと胸をなで下ろす所で。二十一世紀の新しい時代、予期せぬ難問がある日突然我々の身に降りかかるかわかりません。今こそ皆んなで団結を最強の武器にして、あらゆる難問を打破して行きたいものです。



二巡目国体が、平成二十一年に大分県で、開催されるがその時に、ホッケーの会場を玖珠郡で、二面作る様になっている。玖珠、九重両町で各々一面ずつ作るが九重町は、多目的グラウンドのフィールド内に芝を張る様は決まっている。この芝を、天然にするか、人工芝にするかで論議がされるが人工芝も、今日良い物が出来ている。先日の大分の緑化フェアで見て来たが、今の人工芝は、ゲートボールから、野球まで、球技が幅広く出来、管理もしやすい。只、事業費はかなり高くなる。天然芝は、中津江村のサッカー場を見て来た。事業費は安い管理に金がかかる。芝を多目的グラウンドに張ると、各イベントに使うとき支障はないか？それはそれなりに工夫が必要である。いずれにせよ作るなら立派なホッケー場にして、温泉もあり、宿泊施設（ホテル）もあるので全国のホッケー選手を招待して町の振興策にしてはと思う。

(M・O)